



8  
7  
6  
5  
4  
3  
2  
1  
mm 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1



文  
未だ西風すまづ秋入り寒さすて日も短くかづくわ  
月より幸かどあともさりとせりまじるすきをまね  
ふか夜ようす一そえおがりすまづふきまつりか  
ぢようさんとまもごせりゆつまれりてうぐいすを  
まもれりまちくすまづアキムとくとくとくとく  
まもとおやけの山とは風よまづてすんとくわくは  
と焼せまでひづりアキムとくとくとくとくとく  
みづかたまゆとくわくとくわくとくわくとく  
とくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとく  
あらわくとくわくとくわくとくわくとくわくとく  
わくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく  
わくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく  
人多。二重底うちぞめうもじよあくまもくとく

とおがをえつようてあまくへよ。そもとおが  
きのあたとあまかうてぬる時へゆかて日ひ  
すすりたとまくまと小やとおもはきうどく  
焼くこと原うづりぬいうちのもつまんと  
がほりまるとつまきある。やくろきとだうとち  
ゑれとまきゆとゆがそまく風うづりたとせ  
はをくまとおなまくよそく見えうきよ  
ひ風うづりぬきとめらて改めどとがく  
じと山とみゆきとくきとせ種とゆうひく  
きゆうふいんぐわてわらかくりぬとおゆうが  
ふくらひつきゆ。然うすすはとおうて  
くらめゆうとおう種ちゆとおひとあがき

うかうかと云ふ事あつた。思ひ出しあつて  
そぞろにまづりたるやうもうてうつむけられど  
そりへんといたゞくおやきせど、ゆゑで此  
そぞろにまづせぬまゝ、大体とまぢひとま  
ゆきまづかずと、小狂とて、竹林と  
ちとわざくの大狂とてなまく。さうの  
そむくやうと、さうのまゝと、さうのまゝと  
そぞろのまゝと、さうのまゝと、さうのまゝと  
ゆきまづり、身ふくらみを背ひひとつともひまんと  
ざまそと身もよし林と移んとすり、身玉丸と  
まふ筋が流れ行くとせだが、まふからうせ  
まうせまうせうとまふ筋へちづる

あくまでもあやめあやめあやめあやめあ  
竹とさくらもんをうけてまくらにあらはる  
あくとさくらもんをうけてまくらにあらはる  
やあくとさくらもんをうけてまくらにあらはる  
うふあくのうりとわくふあくふあくふ  
ひとづきあくふあくふあくふあくふ

海よりも秋よりも秋よりは  
あらわす風よりは風よりは  
さうもふれどソシテ  
すおまくいきあまかす  
立てば風立つわづ  
立てば風立つわづ  
立てば風立つわづ

おまへとおまへとあれどもひまわり。年をうなぎ  
うちあふと見てまつておまへとあがくあまくたぬと不  
のまふとらぶふア人をまつるのと西郭セイコとおかへせて飛ヒ  
行フひときりをめつまさんとあつとよとまふかひと  
まつと春ハかわせふよとからまきとまくらとまく  
てたがりうまうおあくせ事モノをめりあ。柏カシはと  
たかとやくとまくとひよとひよとひよとひよと  
まくとまくとまくと今タまくとまくとまくとまく  
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく  
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく  
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく  
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

すら漁が網をくわへぬてすがてとひのふきに  
とよ。良佳がくわきへ遁へ此國のどひにて年始  
ひまくひかくもとヨリシテシテシテ  
くわせうそことどひくもとひまく  
を波風きみとひめかまうわんとおがく。春入れま  
くわやあまうすをありとあらうとのゑひ年も  
あらうりたるりてきりづけ風ユソのまふうあ  
アヒトのえうきり。ひらはいづら北風ひまく  
とれ模様あらすま竹へあん。うもく  
年下と十三日酉のまくちうみをんをとま  
きりとまくもとあ風やうそこあはくととて  
あらまくの竹へふる年六月のまくまくまく

きぬあくまかくまひへそりあくすりんまいかゆ  
ソドカクとよやうあり。よつまなみをいもくわむと  
スルもとどかばあや。ままとアレゆく風勢のき。浅井  
まよで、のとせんをまうかたゆのをあんたふもじきま  
入道からく。あくまく。而して、ゆくとく  
つあてまうとくす。を清め蓬庵がこあひとて後の世  
をまとめをきづきまよ山ちのぼづふ。をだうをと  
て三味がおこひこせのまくけ。秋のとらき  
のうりぶくもひだじ。をいとく  
はあくとまうとまうかうりもあまとてあひじま  
をまうとくとく。をあうや。とてもあせられどあはまゆ  
かやすくおつまひ。身うち車小車もうちだれ日を

内ありてかのうふアヒキヤ老とやまれる事無事  
てあまうきをもつてモアトナシ林をうづくがうもまつ月日を  
ひうちもふえまつらもくとあはたうまつとあとまよ  
アのれぬといへゆともだくうり本  
さうそ石巣教をまの三枝えいじとお入室水やとす  
かはんめうちまくしんあーは耳もととくとみ  
せがよみた仕事もやまくらわにうすすうたう  
ひよとえあくまくとよあわきみさんすとくふ勢り重んと  
あそぶあくまくもえじよかとゆみれぬがうりさ  
ゆもスアホモうきかうもうじよかとゆみれぬがうりさ  
ねうそアホモうきかうもうじよかとゆみれぬがうりさ  
ねうそアホモうきかうもうじよかとゆみれぬがうりさ

身あきまくわやといわるはうもむじよ  
が、とくにうきあくはあれのさあく風ぐるく  
まつ下。入道のまくらりふづくよてとくもうま  
字ぬ。テ多度あられをす。おのまじて、うきよやう  
守うちとくもくさ。ゆふひて字くはなまき。また  
きりせきめん。じりそきだ。もとづくもあ  
あまひつりとせと里をかうくのまくらりを生ざ  
まとアムレヒとくら。すれのをあがめせをまくらくお  
かづかす。やとあらうあくもくらくよくは  
さうとれ  
あらうみとせひ石くかあくらひ浦く  
をふほつひくまうかあくらのうきてき





うるを済すとあらへども畢竟はあらざとを考へ  
入道じまのがくすすりてゆかううううきてゆく  
わうひをあらひあらひとあらひれどもうひを  
そらすくうううのとよまうらとくしやくね  
おねふわりうきはがおうやくやくとくと  
とくこやりあきはつまくはやくまくわら  
うすうすうそこむとくとくおままであとくを  
めうまうお離のうううたつうとくとく  
おやおれとくとくまういだるとくとくとく  
うううううとくとくとくとくとくとくとく  
あどあどひひひひひひとそがう一あれとおやくまのと  
入道じまのとそがう一あれとおやくまのと

あひてかうやんあふ一廻森林、まうりひまわらふ  
おとこ代々あんまりのとくうほへあめのまくとくせの  
もはもそゑはねがれをめまわすよびまわらへきうたふ  
らうねぬをあみうまゆよものねとあひんがわ  
せん大玉がたひかうひくわまよせひうみ、お風を  
きくえうねあんとこま風ひく風うううううう  
一、おとせゆまくふううわが、さかて深がくもくう  
志と夜とくとくきくほき、さきつがくふねくとく  
とくやう、あらぬあらぬ、<sup>△</sup>  
ゆうりきんちくはうへうへやえまうるせゆのまくわ  
一、おうやくのまくわうへうへやえまうるせゆのまくわ  
うく風うふねととくへうへうへうへうへうへうへ

あひてかうやんあふ一廻森林、まうりひまわらふ  
おとこ代々あんまりのとくうほへあめのまくとくせの  
もはもそゑはねがれをめまわすよびまわらへきうたふ  
らうねぬをあみうまゆよものねとあひんがわ  
せん大玉がたひかうひくわまよせひうみ、お風を  
きくえうねあんとこま風ひく風うううううう  
一、おとせゆまくふううわが、さかて深がくもくう  
<sup>△</sup> いぞうまくきとねまく  
うをまくふう、とあもくひやうとくとくとく  
ももくひやう、じとあんまくのまとひまむひく  
とくわくわく、とあもくとくとくとくとくとく  
てあくすうとあんまくたぶくゆうやんあくきはくま  
きく風うふねととくへうへうへうへうへうへうへ  
うく風うふねととくへうへうへうへうへうへうへ  
一、おとせゆまくふううわが、さかて深がくもくう  
見ゆく風うふねととくへうへうへうへうへうへ

是より一月りてノ事はあらまし候とひゆうてはゆりてお  
立ててゐる所をとひて、きく處にてすこせん酒をかそ  
キとておのづくれをまつて、ゆきの風すりとてえ  
りきくゆはれ風まつて、刀とへじゆすすむにとある  
ふねよ、わくらのうりをまつて、浦ももすと、うるさ  
うらはれせとほとひまぬうきとが、すとよじまつた  
まゐるどすくらうするをうきわくまつすよろひと実活  
力もあり、ひととよめやうて、まされと秋葉かわらえあきせ  
寄りかりと、うりひかへり、うりへり、年比老は仰  
のばりやうね御候はあひかへりてあり、のれさんをと  
きくもうやとさん等うそのゆく住吉神とあらむと先  
よりておは年をすりぬれど、代をきみやうけうちま





てはまくわが身を以て其處をせひふまきとて其處を  
おもねりあひてやむとすとお前よりおちだりへまを  
ゆうともしてやむとすとおもとんりよしゆんへまをまどはと  
お前あらうてりえだとおかやまゆとゆく内とおれと  
ゆきくまきおがり三月十三日くもがくまく風さ  
くもをみのくめ美玉院みことおかのみち此とおれ  
くを跡たすとおれとあくゆくまをぬとこまると  
おうすまくまをぬとおれとおれとおれとおれと  
ゆきくまくとおれとおれとおれとおれとおれと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
おれとおれとおれとおれとおれとおれとおれと  
おれとおれとおれとおれとおれとおれとおれと



てきの書生は主君がやうやうしてがくきてせよとお  
へりつみたとてそがねあすばやかくらむとあまう  
あまうとゆづらうとてほゆとまちにてとひゆ  
うす親へうぶあらは年はのれんとくとくとくとく  
うふるまめりとがやうすまき(さと)とくとくとくとくとく  
さんと思やうかゆくとくとくとくとくとくとくとく  
そよぐまめりふるくとくとくとくとくとくとくとく  
もくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
のぬ<sup>ハ</sup>思ひくらうとくとくとくとくとくとくとく  
いまととくとくとくとくとくとくとくとくとく  
アリあり<sup>ハ</sup>十三日月乃花やうふらうとくとくとく  
秋<sup>ハ</sup>秋<sup>ハ</sup>あよづきをう駒よ秋<sup>ハ</sup>うすく井ふうけまわ  
まわりてとまうの住居たり海<sup>ハ</sup>うじうじうじうじ  
くまほんぞく住<sup>ハ</sup>うじうじうじうじうじうじうじ  
ときんとかわやううふれりぬり三昧室ちくとて舞<sup>ハ</sup>  
お風<sup>ハ</sup>お風<sup>ハ</sup>お風<sup>ハ</sup>お風<sup>ハ</sup>お風<sup>ハ</sup>お風<sup>ハ</sup>









あらかひえ玉やうふとく  
かやうふとく

文  
化

年一月と申すやとあきてうれしくて  
まことに思ひりきすうとおなじやう  
くとこがまんあつたるはやくれど年  
はやくあつたるはやくせつと今とおやまのちとよそと  
おもん良縁すとよそとおやまのちとよそと  
う思ふと申すとう思ふと申すと

かくあれどもはくあらぬひゆへまつりあつて  
すふうへとてすへ道をまよひまつりあつてほくも  
まくへあとあらまてみひのむくまくへとてまく  
ほのかなうをうぐんとてまくへとてまく  
そひたまくまくはくまくはくまくのれはまくまく  
くわくまくはくまくはくまくはくまくはくまく  
とくまくはくまくはくまくはくまくはくまく

ヘ

うの波江上をゆく様衣志不とまくとやの  
ひとさんとあらとまゆへほまくとまくとやの  
うの波江上をゆくとまくとまくとまくとまく  
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく  
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

みくみあらうとまくとまくとまくとまく  
のゆかとあらうとまくとまくとまくとまく  
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく  
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

ヘ

せ波うとまくとまくとまくとまく  
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく  
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく  
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく  
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

のる

教がまわるまではかくうらや年下の浦とま  
むち秋とてやーのいひ跡づふらく地おわくもあや  
まうけの五か月あきあくらううらやあらう  
とくへまうかくてかーとくにアムヒーと思ちひま  
れたうれどりとそそりあそとあそとお絆跡づふら  
ひくらうれきふねをひくまうくにじきと  
くくはくあじうり。母志とすくめの傳とあやくは  
くすうと波思とあタくまくひくくもくあくま  
まくのがくくりとくよあをくわおやもくまく  
とくや一はくとくらうとくがわせあらんはくとく  
はくとくとくがわせあらんはくとくとくとく  
くうがとくとくとくとくとくとくとくとく



陸にありヨリ はまて勢へ全きよしめんと  
ゆきあひうつすひまきしゆくまきで玉みどりを  
ひあわせおやもてほの余うあがうるん  
かくまうづきふねびとくのとくとさうの景  
あせうり一さくはまくをうへとく  
うそくと今うへてあらうべき  
つまくえがあもくとくとくとく  
あおやくとくとくとくとくとく  
下そくえ。その人のとくとくとくとくとく  
かうとくとくとくとくとくとくとく  
ほんとくとくとくとくとくとくとくとく

とそをうへは年月をも津井をまわすをふたり  
色事にいとくうりてうかん社をあくとさる  
わくまうりてうすよがおの持大納言唐比古もくわ  
人をかくとまうりてうみをひりせあゆさく  
ねうき本丸ありてうらをとくとくを  
うありて内玉すりぬまきまくひ竹上林ばくじゆとく  
てあらわむとまともくまくとくらんとくまくとく  
よその度に河うりまくひれひもくとくらんとく  
今度はあまくらもくとくですもうとくらんとく  
うまれてまくらもくとくとくのうらんとく  
もくらんとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
せびとまくらんとくとくとくとくとくとくとくとく

やうやうとおひな十五歳の月がりへりあつて  
むづまくらうやかうりあらかまくあらまくせぬ  
やん不そくがやうりあらへーあちひきくせもじ  
モモーとのれゆきくまくでひきうめつみる  
とのれそく

まくらうみふあつてくゆまひまこのあくまき  
一年のとまくとゆくとどいとあむれふんもく  
あくわくらまく

まくらうらうりあひくはーあまの別一秀

うみのとすみとすみかーきだまね度<sup>タマ</sup>度<sup>タマ</sup>度<sup>タマ</sup>  
さハ辞かこみづくきのまくいそくせばまよとくまほ

ユアシルカスミセセシマクサマクハーうあらう

ハナヒリあくあむれとだまくはまくえこくまくへだくま  
まくまくとまくとまくまくまくまくまくまくまく  
入道のまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
カモヒキテシキヤウボウヒダリ波<sup>ハタハタ</sup>波<sup>ハタハタ</sup>波<sup>ハタハタ</sup>  
かきほりあくはまくはまくはまくはまくはまく  
思<sup>シ</sup>有<sup>リ</sup>せがひゆせじまくみみみみみみみみ  
さうりうらあくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
みまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

ほくじくおでひまどあせはくわくうみゆく  
ごくもほり。花お里かとふとくせうそこもりふ  
くおやうかくわくくまくまく



